

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600225		
法人名	株式会社 You More Smile		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富字大明神前1108番地の3		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600225-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和3年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者おひとりおひとりの思いや、残っている力を尊重し、その人らしい暮らしをしていただけるように常に考えています。少人数のホームであることを強みに、利用者おひとりおひとりに寄り添う時間を多く設けることができます。食事も共同スペース内にあり3食スタッフが作っており、利用者の嗜好や体調、季節に合わせてなど臨機応変に提供できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスへの感染防止策を講じ、可能な限りこれまで通りの支援の継続を目指している。緊急事態宣言の発令下ではあっても、家族面会を完全ストップとはせず、玄関先での短時間の面会を認めている。理由(家族との外出・外食ができないことによる不穏状態)があれば、家族同伴での外出も許可している。天気が良い日には、隣の神社への散歩を欠かさない。春には、人気(ひとけ)のない桜の名所の神社まで出かけて花見を楽しんだ。「地域交流の活性化」を目標達成計画に取り上げたが、コロナ禍によって計画通りには実施できていない。長年の付き合いのある近所の農家からは、折々に新鮮な野菜のお裾分けがあり、お彼岸におはぎを作ってお礼として持って行った。地道な地域交流は継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナの蔓延により、施設外の交流などは難しい状況ではあるが、住み慣れた地域で暮らし続けることの意義を職員間で理解し、実践につなげるようにしている	「家庭的な環境の中で、利用者の自立した生活を支える」ことを理念に掲げ、事務室の入り口にも掲示がある。職員の異動も少なく、利用者との穏やかな日常生活が営まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防のために地域の行事も中止となっており、利用者自身が地域との交流をすることが困難になっているが、運営推進会議も書面開催ではあるが配布し、少しでもつながりが維持できるよう努めている	地域交流の活性化を目標達成計画に取り上げたが、コロナ禍によって計画は実施に至っていない。長年の付き合いがある近所の農家からは新鮮な野菜のお裾分けがあり、お礼におはぎを振舞った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域との交流が困難なため実施は出来ていない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内実施の運営推進会議は実施できていないが、地域内での合同運営推進会議は4か月毎に参加しておりその場では各施設の取り組みや介護事例の発表などを行い情報交換をしている	年間3回は町内6グループホームが合同で運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの職員が参加している。残る3回は書面開催とし、家族等にホームの運営状況を報告している。	ホーム単独開催の運営推進会議では、目標達成計画の取組みや進捗状況を報告事項に入れることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は連絡をとり、協力関係を継続している。	コロナ禍にあっても、ほぼ毎月のペースで地域ケア会議が開催されている。地域の医療連携に関する話題が多く、地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、医療機関(医師)等が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については有益性はなく、ケアの中の選択肢にも含めないように常に意識し、スタッフミーティング内でも常に身体拘束に当たらないのかを考えるようにして実践している	毎月のスタッフミーティングの中で、身体拘束の適正化に向けた委員会を開催している。直接的な身体拘束の事例はなく、スピーチロックに関する注意喚起や意見交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの中で、スタッフが一生懸命になりすぎた結果利用者の気持ちが落ち込むこともあり、行き過ぎるとそれは虐待になるということなど、学ぶ内容だけでなく些細なことまで留意していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族状況や生活環境の多様性を感じる機会も多くなり、本部とも相談をしながら対応できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族との信頼関係を築くことは大変に重要であると考え、入居時だけに限らず入居後も何かあれば対応させていただく旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に面会などは難しい状況ではあるが、現在は一応一定のルールを設け面会を可能にしており、面会時などにはお話をさせていただき希望などをお聞きするようにしている	緊急事態宣言の発令中であっても、厳しい制限を設けて家族の面会を認めている。面会を希望する家族は、玄関先で10分程度の制限時間の中で利用者と対面している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングやその他のタイミングでも施設へは顔を出し、その際には必ずスタッフと会話をするようにしている。その他の時でも電話などでコミュニケーションをはかっている	経営母体が変わって2年目を迎えている。毎月のスタッフミーティングには、新たに経営母体となった法人の社長や常務が出席し、管理者や職員の声を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給なども実施し、現場からの必要に応じて環境の整備なども出来る限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング内で研修の機会を設けるなどスタッフの知識などを増やす機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の合同運営推進会議への参加もしており、その中でいろいろな情報を交換することができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みはほぼご家族からではあるが、入居前の様子などを伺い、そこからご本人に必要な援助の内容などをくみ取って反映している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族が悩みをもっていることがほとんどであり、いろいろなお話を聞かせていただいて、その中で施設に求めることなどをおたずねしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用されているサービスなどもおたずねし、入所だけでなく他の方法があることも必要であれば助言させていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方は決して何も出来ない方ではなく、今まで生きてこられた中での経験や知識もあるため、相談に乗っていただいたり、経験談をお聞かせいただいたりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居をされるとどうしてもご家族との縁が薄くなりがちでありご本人にとってとても寂しい様子を何度も見てきており、写真のあるおたよりなどで近況を報告したりしながらなるべく興味をもっていたできるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの感染の予防のため、施設から施設外に行く機会がないが、短時間に限りご家族との外出を認めている。	馴染みの人や場所の支援は、コロナ禍によって全面的にストップしている。陽の当たる日には、誰に言われるともなく、布団を干す生活習慣を継続している利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用部(ホール、食堂)で過ごされる方が多いため、テーブルの席などに配慮している。そのため、利用者同士の会話が弾んでいる様子もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前に入居されていた方のご家族やご親戚に紹介をいただく事もあり、必要や要望があれば可能な限りは支援をしていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設なのである一定の暮らしのリズムの規定はあるが、少人数であることの強みとして個人の気持ちに合わせるようにしている	外部と遮蔽された環境の中で、ある利用者が閉塞感から不穏症状を呈した。家族との定期的な外出ができなくなったことが原因と考え、家族との外出・外食を行い、利用者は平穏な生活を取り戻した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やその後もご本人やご家族からお聞きしたりしながら今までの暮らしを把握させていた		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月行うスタッフミーティング内では各1人1人すべての利用者について今の状態を話し合い、スタッフ全員で確認し情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関わる人からの情報提供などをいただき、スタッフでも何が今必要なケアなのかを考え反映している	利用者の思いや意向を介護計画に繋げて支援している。元民生委員の利用者は、「他人の役に立ちたい」との思いが強く、リビングの掃除や新聞紙・広告たたみが介護計画に盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を書いてないのはケアをしていないのと同じという指導を定期的におこない、記録の大切さや情報共有の大切さを伝えている。その中で、現状のケア内容などについても提案できる体制にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームは他の介護保険サービスを使えるものがないため施設契約の訪問看護によるサービスと音楽療法士による音楽療法については全員が受けていただけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来であれば、地域密着型の特徴として地域資源との交流をしていきたいがコロナ渦により困難な状況である。解消した際には支援をしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医への診療を希望されている方はそのままでもかまわない旨をお伝えしている。受診時には情報の提供などを行い、施設での様子なども伝えている。	ホーム協力医が2週に1度の訪問診療に訪れている。歯科も月に2回の往診があるが、他科受診は家族対応となる。家族の都合により、家族に代わって職員が同行することも稀ではない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師時には状況の報告などを行い、相談もしている。急変時などにも訪問看護師に指示を仰いだりしながら適切に医療につないでいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーの提供をどちらも行き、入院退院においてスムーズに受け入れができるように努めている。退院時には医療から必要な情報提供をしていただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の際にはご家族との話し合いを行い、施設で出来ることとご家族の望まれる事などの照らし合わせを行っている。入居時には重度化の指針についての説明もおこなっている	利用開始時に、重度化に対するホームの方針を丁寧に説明している。利用者が重度化(持病の悪化)した場合には、医師の判断で入院対応となるケースが多い。看取り経験はあるが、近年は救急搬送～入院～病院にて死亡、がほとんどである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はスタッフミーティング内などでも随時確認をおこなっている。連絡などについては電話のそばに連絡先がわかるように設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。昨今の異常気象のこともあり、火事だけでなく天変地異についても都度話し合っている	ホームのごく一部が、町のハザードマップの土砂災害警戒区域にかかっている。土砂災害の危険が迫ったときには、危険場所からホーム内の一番遠いところに避難することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誰もが老いたら優しく接してほしいという気持ちをもっていることを忘れずに自分がされたら辛いような声掛けは行わないように指導をしている	職員の異動が少ないことから、長い付き合いとなっている利用者も多い。「馴れ」から、知らず知らずのうちに礼を欠くことが無いよう、スタッフミーティングでは常に注意喚起をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者おひとりおひとりの密な人間関係を築くことで表出していただいている。遠慮がちで自分からの表出が難しい方については配慮し、何うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の大まかな日課はあるものの、1日のうちに終わればいいのか明日でもかまわないじゃないかという考え方をしているため、都合を優先するようなことは必要ないことが大半である		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	もってきていただいているお洋服の中でTPOに合わせて外出時にはおしゃれをしていただくなどの配慮をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食スタッフが献立を考え、調理師提供しているため、スタッフも利用者の嗜好を把握している。入所時や生活の中でも嗜好を確認し、楽しく食事がしていただけるようにしている	3食すべて職員の手作りで、利用者は必ず食前に「バタカラ体操」を行って食事を摂っている。苦手な献立や食材も、食器を替えて雰囲気を変える等の工夫をし、利用者の「美味しい」を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残し、変化があった際は訪問看護師や医師に相談を行ったりして健康の維持ができるように配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の往診が定期的であり、歯科衛生士からの指導を仰いだりしながら、適切な口腔ケアを行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院などで一時的に排泄の状態が落ちてしまっても、以前の状態に戻れるように考えて援助をおこなっている	排泄介助が必要な利用者は3名で、他はほぼ自力で排泄が可能である。極力布パンツで過ごしてもらい支援を行っており、夜間に紙パンツを使う利用者も、昼間は布パンツで生活している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を行い、排泄のコントロールに生かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1人ずつゆっくりとおこない、利用者おひとりおひとりの大切なコミュニケーションの時間となっている	1日に4名づつ、隔日(週3回)の入浴支援を行っている。軽い入浴拒否の利用者がいるが、無理強いせず、日にちを翌日にずらすことで入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋は全室個室となっており、休みたいときに休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容などを把握し、薬に関わる責任についても理解するようにしている。特に副作用については服用時に変化があった時などには常に意識をするようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で仕事を依頼させていただく場面などもあるが、個々の得意なことなどをお願いし出来ることの誇りなどを感じていただけるような声掛けを行うようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防のために外出レクは自粛しているが、散歩程度の外出はおこなっている。ご家族との外出については感染予防対策をお願いし、短時間に限り許可をしている	コロナ下ではあるが、ホーム周辺は人通りも少なく、天気の良い日は隣の神社への散歩を欠かさない。調査当日も、職員と連れ立って3~4名の利用者が散歩に出て行った。交代で、毎日希望者全員が散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については責任が持てないためおこなっていないが、家族の責任において多少はご自身でもってきている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという訴えにはご家族の協力、了承のもと援助をおこなっている。手紙などは出したいとの依頼があれば対応する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部において、一日の大半をここで過ごされる方も多いため常にレイアウトなどに配慮し、生活がしやすいように考えている。	絵画を趣味とする民生委員が、壁に飾ってある作品の交換に定期的に訪れていたが、コロナ禍によって来訪が中断している。利用者の入れ替えの度に、利用者や職員の動線を考慮してリビング(テーブル)のレイアウト変更を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部でも、おのおのの過ごし方は違うため、一人で過ごされる方の席や、誰かと過ごしたい方の席の配置などに常に配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室個室となっており、使い慣れた家具などをお持ちくださいとお願いをおこなっている。さほど物もってきては下さらないものの、利用者にとっては自分の空間となり落ち着けるようである	利用者はほとんどの時間をリビングで過ごし、居室は夜間の就寝場所として利用している。そのため、必要最低限の調度・家具類の持ち込みで、生活感には乏しい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字が読めない方の場合にはご案内するが、理解が出来る方のためにわかりやすい表示などを行って自ら動いていただけるようにしている		